

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館研究報告 vol.19-1; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009194

1994—1991
卷1号

国立民族学博物館 研究報告

●
ヒリモトゥ語の類型：辞順と後置詞

——KWIC資料に基づく通言語的研究—— 崎山 理

ハワイ諸島の国家形成と人口論的基盤—— 後藤 明

中国農民社会における儒教の影響の実態

——東北地方の実地調査に基づいて—— 聶 莉莉

東アジアにおける儀礼的饗宴

——その構造の比較研究—— 金 尚寶



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

19 卷 1 号

1994 年

目 次

ヒリモトッ語の種類：辞順と後置詞 ——KWIC 資料に基づく通言語的研究——	崎山 理	1
ハワイ諸島の国家形成と人口論的基盤	後藤 明	19
中国農民社会における儒教の影響の実態 ——東北地方の実地調査に基づいて——	轟 莉莉	61
東アジアにおける儀礼的饗宴 ——その構造の比較研究——	金 尚寶	95
彙 報		167
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		170
国立民族学博物館研究報告執筆要領		171

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 19 No. 1

1994

SAKIYAMA, Osamu	Affix Order and Postpositions in Hiri Motu: A Cross-Linguistic Survey	1
Goto, Akira	State Formation and Its Demographic Basis in the Hawaiian Islands	19
NIE, Lili	The Influence of Confucianism on Chinese Peasant Society: Field Data from a Rural Village in North-eastern China	61
KIM, Sang-Bo	Ceremonial Banquets in East Asia: A Comparative Study of Their Structure	95

彙 報

(平成 6 年 1 月～
平成 6 年 3 月)

人事異動

(行政職)

(昇 任)

1 月 1 日 管理部庶務課課長補佐
宮下 富夫
(大阪大学庶務部庶務課総務掛
長)

(配置換)

1 月 1 日 大阪大学学生課課長補佐
疋田 勇
(管理部庶務課課長補佐)

(任期満了)

3 月 31 日 情報管理施設長 藤井 知昭
(第二研究部教授)

(教育職)

(停年退職)

3 月 31 日 第一研究部教授 竹村 卓二

(客員研究部門)

(任期満了)

3 月 31 日 第二研究部教授 板垣 雄三
(東京経済大学教授)
第二研究部教授 関本 照夫
(東京大学教授)
第三研究部教授

KULAS, James Edward

(大阪外国語大学外国人教師)
第四研究部教授 畑中 幸子
(中部大学教授)

第四研究部教授 中山 和芳
(東京外国語大学教授)

第五研究部教授 長尾 真
(京都大学教授)

第五研究部教授 大貫 良夫
(東京大学教授)

第三研究部助教授 永ノ尾信悟
(東京大学助教授)

(外国人客員研究部門)

1 月 6 日 第五研究部助教授
TONG, Chee Kiong

(シンガポール, シンガポール
国立大学上級講師)

<任期 6. 1. 6～6. 4.27>

2 月 21 日 第五研究部助教授 額 爾 岱
(中華人民共和国, 新疆和布克
賽爾県第一中学校副校長)

<任期 6. 2.21～6. 8.31>

(任期満了)

1 月 31 日 第五研究部助教授 金 尚 寶
(大韓民国, 大田保健専門大学
副教授)

<任期 5. 2. 1～6. 1.31>

3 月 31 日 第五研究部教授 金 基 赫
(アメリカ合衆国, 大韓民国浦
項工科大学教授)

<任期 5. 9.16～6. 3.31>

運営協議員

(任期満了)

氏 名 (任 期)

3 月 31 日 原 ひろ子 (4. 4. 1～6. 3.31)

竹村 卓二 (4. 4. 1～6. 3.31)

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
小山 修三	教 授 (第四研究部)	6. 1. 7	6. 1.16	オーストラリア
清水 昭俊	教 授 (第四研究部)	6. 1. 8	6. 3. 2	アメリカ合衆国, ミクロネシア連邦
大塚 和義	教 授 (第五研究部)	6. 1.12	6. 1.16	中華人民共和国
熊倉 功夫	教 授 (第一研究部)	6. 2. 3	6. 2.11	イギリス

周 達生	教授 (第一研究部)	6. 2. 9	6. 2.16	ベトナム
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	6. 2. 9	6. 3. 4	ミャンマー
佐々木高明	館 長	6. 2.15	6. 2.26	ドイツ, イギリス
田邊 繁治	教授 (第二研究部)	6. 2.15	6. 2.26	ドイツ, イギリス
柄木田明子	助手 (第三研究部)	6. 2.15	6. 2.26	ドイツ, イギリス
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	6. 2.18	6. 3. 3	インド
立川 武蔵	教授 (第二研究部)	6. 2.19	6. 3. 3	ネパール
朝倉 敏夫	助手 (第四研究部)	6. 2.21	6. 3.21	大韓民国
友枝 啓泰	教授 (第四研究部)	6. 2.21	6. 3.23	ペルー, ボリビア, アルゼンチン, パラグアイ, チリ, エクアドル, コ ロンビア, メキシコ
熊倉 切夫	教授 (第一研究部)	6. 2.24	6. 3. 2	タイ, ミャンマー
江口 一久	助教授 (第三研究部)	6. 2.25	6. 3.30	カメルーン
松原 正毅	教授 (第一研究部)	6. 3. 2	6. 3. 8	オランダ, ドイツ
小長谷有紀	助教授 (第一研究部)	6. 3. 3	6. 3.16	中華人民共和国, モンゴル
中牧 弘允	助教授 (第一研究部)	6. 3. 6	6. 3.22	オランダ, スペイン, ポルトガル
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	6. 3. 8	6. 3.12	中華人民共和国
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	6. 3.19	6. 3.31	インド
熊倉 切夫	教授 (第一研究部)	6. 3.20	6. 5.21	アメリカ合衆国, オーストリア
大森 康宏	助教授 (第五研究部)	6. 3.23	6. 4. 7	フランス, イタリア

来館者抄

1月6日	加藤 秀俊 (放送教育開発センター所長) 荻野崇一郎 (国際交流基金京都支部長)	2月3日	近藤 靖弘 (向日市教育委員会教育長), 安田 久一 (向日市教育委員会管理課長), 堀内 佳子 (向日市図書館長)
1月10日	小松 左京 (作家)	2月7日	Myo Myint (ミャンマー, 外務省在外公館局長), Zaw Tun Aung (ミャンマー, 国防省情報局), Naing Zaw Oo (ミャンマー, 社会福祉・救済・復興省カバーエイ青年訓練学校長), May Myint Mu (ミャンマー, 情報省広報局), Kyaw Htay (ミャンマー, 文化省), Sein Nating (ミャンマー, 首相府),
1月21日	坪内 良博 (京都大学東南アジア研究センター所長)		
1月25日	YAGIYA, Vatanayar Saidovich (ロシア連邦, サンクト・ペテルブルグ大学教授)		
1月28日	MONDALE, Joan Adams (アメリカ合衆国, 駐日アメリカ合衆国大使夫人), PABST, Sally (アメリカ合衆国, 駐大阪・神戸米国総領事夫人), 熊屋 俊樹 (大阪アメリカン・センター副館長), 佐貫 恵造 (大阪アメリカン・センター), 西津 明子 (ミネアポリス・茨木姉妹都市協会), 脇山 緋佐 (ミネアポリス・茨木姉妹都市協会)		

Sae Bo (ミャンマー, 少数民族
開発大学), Yi Yi Htwe (ミヤ
ンマー, 国家環境問題委員会)

KEDIT, Peter M. (マレーシア,
サラワク博物館長), 宮本
勝(中央大学総合政策学部教授)

DISKUL, M.L. Panadda (タイ,
外務省)

2月18日 フランシース・エライユ (フラ
ンス, 国立高等研究院教授)

3月15日 山口 洋一 (外務省特命全権大
使大阪駐在)

3月16日 小野和日児 (建設省国土地理院
長), 太島 和雄 (建設省国土
地理院近畿地方測量部長), 中
条 賢治 (建設省国土地理院企
画部測量管理官)

3月25日 TRANET, Michel (カンボジア,
文化省国務次官), CASANOVA,
Patricia Vargas (チリ, チリ大
学), 猪熊 兼勝 (奈良国立文
化財研究所埋蔵文化財センター
研究指導部長)

3月28日 劉 徳 有 (中華人民共和国,
文化省次官), 曲 潤 海 (中
華人民共和国, 芸術局長), 劉
字 輝 (中華人民共和国, 対
外文化連絡局アジア処副処長),
趙 宝 農 (中華人民共和国,
文化市場管理局弁公室副主任),
季 延 煊 (中華人民共和国,
弁公庁), 石 永 菁 (中華人
民共和国, 対外文化連絡局アジ
ア処)

RASMBHUTI, Suvit (タイ, 教育
省副事務次官) 夫妻

IBRAGIMOV, Nematura (ウズベ
キスタン, タシケント国立東洋
大学総長), AZIMOVA, A.Z. (ウ
ズベキスタン, タシケント国立
東洋大学国際関係副学長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 19卷1号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

朝 倉 敏 夫

江 口 一 久

近 藤 雅 樹

崎 山 理

清 水 昭 俊

新 免 光 比 呂

田 村 克 己

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

松 山 利 夫

吉 田 集 而

平成6年8月25日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 19卷1号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園 10-1
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.19 no.1
1994

- | | |
|------------------------|--|
| SAKIYAMA, Osamu | Affix Order and Postpositions in Hiri Motu: A Cross-Linguistic Survey |
| GOTO, Akira | State Formation and Its Demographic Basis in the Hawaiian Islands |
| NIE, Lili | The Influence of Confucianism on Chinese Peasant Society: Field Data from a Rural Village in Northeastern China |
| KIM, Sang-Bo | Ceremonial Banquets in East Asia: A Comparative Study of Their Structure |



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X